# FabricPoolのクラウド階層として使用するオブジェクト ストアのセットアップ

ONTAP 9

NetApp
February 12, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/ontap/fabricpool/setup-object-store-as-cloud-tier-task.html on February 12, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

# 目次

FabricPoolのクラウド階層として使用するオブジェクト ストアのセットアップ . . . 1
FabricPoolのクラウド階層として使用するオブジェクト ストアのセットアップ - 概要 . . . 1
StorageGRID を ONTAP FabricPool クラウド階層として設定する . . . 1
ONTAP S3をFabricPoolクラウド階層として設定 . . . 3
Alibaba Cloud Object StorageをONTAP FabricPoolクラウド層として設定する . . . 5
Amazon S3 を ONTAP FabricPool クラウド階層として設定する . . . 6
Google Cloud Storage をONTAP FabricPoolクラウド層として設定する . . . 8
FabricPoolでGoogle Cloud Storageを使用する場合の追加の考慮事項 . . . 8
IBM Cloud Object StorageをONTAP FabricPoolクラウド層として設定する . . . 9
Azure Blob Storage を ONTAP FabricPool クラウド層として設定する . . . 10
MetroCluster構成でONTAP FabricPool用のオブジェクトストアを設定する . . . 11

# FabricPoolのクラウド階層として使用するオブジェクト ストアのセットアップ

## FabricPoolのクラウド階層として使用するオブジェクト ストアのセットアップ - 概要

FabricPoolのセットアップで、クラウド階層として使用するオブジェクト ストア（StorageGRID、ONTAP S3、Alibaba Cloud Object Storage、Amazon S3、Google Cloud Storage、IBM Cloud Object Storage、Microsoft Azure Blob Storage）の設定情報を指定します。

## StorageGRID を ONTAP FabricPool クラウド階層として設定する

StorageGRIDをFabricPoolのクラウド層として設定できます。SANプロトコルでアクセスされるデータを階層化する場合、NetAppでは接続性を考慮して、StorageGRIDなどのプライベートクラウドの使用を推奨します。

**FabricPoolでStorageGRIDを使用する場合の考慮事項**

- 証明書のチェックを明示的に無効にした場合を除き、StorageGRIDのCA証明書をインストールする必要があります。
- オブジェクト ストア バケットで StorageGRID オブジェクトのバージョン管理を有効にしないでください。
- FabricPoolライセンスは必要ありません。
- NetApp AFFシステムからストレージが割り当てられた仮想マシンにStorageGRIDノードが導入されている場合は、ボリュームでFabricPool階層化ポリシーが有効になっていないことを確認してください。

  StorageGRIDノードで使用するボリュームでFabricPoolによる階層化を無効にすることで、トラブルシューティングとストレージの処理がシンプルになります。

> FabricPoolを使用してStorageGRIDに関連するデータをStorageGRID自体に階層化することは絶対にしないでください。StorageGRIDにStorageGRIDデータを階層化すると、トラブルシューティングと運用がより複雑になります。

タスク概要

ONTAP 9.8以降では、StorageGRIDの負荷分散が有効になっています。サーバのホスト名が複数のIPアドレスに解決される場合、ONTAPは、返されたすべてのIPアドレス（最大16個のIPアドレス）とクライアント接続を確立します。接続が確立されると、IPアドレスはラウンドロビン方式で選択されます。

手順

ONTAP System ManagerまたはONTAP CLIを使用して、StorageGRIDをFabricPoolのクラウド階層としてセットアップできます。

**System Manager**

1. ストレージ **>** 階層 **>** クラウド階層の追加 をクリックし、オブジェクト ストア プロバイダーとして StorageGRID を選択します。
2. 必要な情報を入力します。
3. クラウドミラーを作成する場合は、*FabricPoolミラーとして追加*をクリックします。

FabricPoolミラーを使用するとデータ ストアをシームレスに置き換えることができるため、災害発生時でもデータを使用できるようになります。

**CLI**

1. `storage aggregate object-store config create`コマンドと `-provider-type `SGWS`パラメータを使用して、StorageGRID 構成情報を指定します。

   - `storage aggregate object-store config create`提供された情報を使用して ONTAP が StorageGRID にアクセスできない場合、コマンドは失敗します。
   - `-access-key`パラメータを使用して、StorageGRIDオブジェクト ストアへの要求を承認するためのアクセス キーを指定します。
   - `-secret-password`パラメータを使用して、StorageGRIDオブジェクト ストアへの要求を認証するためのパスワード（秘密アクセス キー）を指定します。
   - StorageGRIDパスワードが変更された場合は、ONTAPに保存されている対応するパスワードをすぐに更新する必要があります。

     これにより、ONTAPは引き続きStorageGRID内のデータにアクセスできます。

   - `-is-certificate-validation-enabled`パラメータを `false`に設定すると、`StorageGRID`の証明書チェックが無効になります。サードパーティの証明機関からの署名付き証明書（(-is-certificate-validation-enabled true`）を使用することが推奨されるベストプラクティスです。

```
cluster1::> storage aggregate object-store config create
-object-store-name mySGWS -provider-type SGWS -server mySGWSserver
-container-name mySGWScontainer -access-key mySGWSkey
-secret-password mySGWSpass
```

2. `storage aggregate object-store config show`コマンドを使用して、StorageGRID 構成情報を表示および確認します。

```
`storage aggregate object-store config modify`
コマンドを使用すると、FabricPoolのStorageGRID構成情報を変更できます。
```

関連情報

- "storage aggregate object-store config create"
- "storage aggregate object-store config modify"

- "storage aggregate object-store config show"

# ONTAP S3をFabricPoolクラウド階層として設定

ONTAP 9.8以降を実行している場合は、ONTAP S3をFabricPoolのクラウド階層としてセットアップできます。

開始する前に

- ONTAP S3サーバの名前およびリモート クラスタにあるその関連LIFのIPアドレスを確認しておく必要があります。

> サーバ名は、クライアント アプリケーションで完全修飾ドメイン名（FQDN）として使用されます。ONTAP外で、使用中のSVMデータLIFを指しているDNSレコードを確認します。

- ローカル クラスター上にクラスタ内LIFが存在している必要があります。

  ローカル クラスタ階層化用に設定すると、ローカル階層（ONTAP CLI ではストレージ アグリゲートとも呼ばれます）がローカル バケットに接続されます。FabricPool は、クラスタ内トラフィックにクラスタ LIF を使用します。

> クラスタLIFリソースが飽和状態になると、パフォーマンスが低下する可能性があります。これを回避するため、NetAppでは、ローカルバケットへの階層化を行う場合は、ローカル階層用のHAペアとローカルバケット用のHAペアを使用して、4ノード以上のクラスタを使用することを推奨しています。単一のHAペアでローカルバケットへの階層化を行うことは推奨されません。

- ONTAP S3 を使用してリモート FabricPool 容量（クラウド）階層化を有効にするには、FabricPool クライアントで "クラスタ間LIFを設定する" を実行し、オブジェクト ストア サーバーで "データ LIF を設定" を実行する必要があります。

タスク概要

ONTAP 9.8以降では、ONTAP S3サーバの負荷分散が有効になっています。サーバのホスト名が複数のIPアドレスに解決される場合、ONTAPは、返されたすべてのIPアドレス（最大16個のIPアドレス）とクライアント接続を確立します。接続が確立されると、IPアドレスはラウンドロビン方式で選択されます。

手順

ONTAP System ManagerまたはONTAP CLIを使用して、ONTAP S3をFabricPoolのクラウド階層としてセットアップできます。

**System Manager**

1. ストレージ **>** 階層 **>** クラウド階層の追加 をクリックし、オブジェクト ストア プロバイダーとして ONTAP S3 を選択します。
2. 必要な情報を入力します。
3. クラウドミラーを作成する場合は、*FabricPoolミラーとして追加*をクリックします。

FabricPoolミラーを使用するとデータ ストアをシームレスに置き換えることができるため、災害発生時でもデータを使用できるようになります。

**CLI**

1. S3サーバとLIFのエントリをDNSサーバに追加します。

| オプション | 概要 |
| --- | --- |
| • 外部 DNS サーバーを使用する場合 * | S3サーバの名前とIPアドレスをDNSサーバ管理者に渡します。 |
| ローカルシステムの**DNS**ホストテーブルを使用する場合 | 次のコマンドを入力します。<br>`dns host create -vserver <svm_name> -address ip_address -hostname <s3_server_name>` |

2. `storage aggregate object-store config create`コマンドに `-provider-type `ONTAP_S3`パラメータを指定して、ONTAP S3 構成情報を指定します。
   - `storage aggregate object-store config create`ローカルONTAPシステムが提供された情報を使用してONTAP S3サーバにアクセスできない場合、コマンドは失敗します。
   - `-access-key`パラメータを使用して、ONTAP S3サーバへの要求を承認するためのアクセスキーを指定します。
   - `-secret-password`パラメータを使用して、ONTAP S3サーバへの要求を認証するためのパスワード（シークレットアクセスキー）を指定します。
   - ONTAP S3サーバのパスワードが変更された場合は、ローカルのONTAPシステムに格納されている対応するパスワードをただちに更新する必要があります。

     これにより、中断なくONTAP S3オブジェクト ストア内のデータにアクセスできます。
   - `-is-certificate-validation-enabled`パラメータを `false`に設定すると、ONTAP S3の証明書チェックが無効になります。サードパーティの証明機関からの署名付き証明書 (-is-certificate-validation-enabled true`を使用することが推奨されるベストプラクティスです。

```
cluster1::> storage aggregate object-store config create
-object-store-name myS3 -provider-type ONTAP_S3 -server myS3server
-container-name myS3container -access-key myS3key
-secret-password myS3pass
```

3. `storage aggregate object-store config show`コマンドを使用して、ONTAP_S3設定情報を表示および確認します。

`storage aggregate object-store config modify`
コマンドを使用すると、`FabricPool`の `ONTAP_S3`構成情報を変更できます。

関連情報

- "SMB用のLIFを作成する"
- "NFS用のLIFを作成する"
- "storage aggregate object-store config create"
- "storage aggregate object-store config modify"
- "storage aggregate object-store config show"

# Alibaba Cloud Object StorageをONTAP FabricPoolクラウド層として設定する

ONTAP 9.6以降を実行している場合は、Alibaba Cloud Object StorageをFabricPoolのクラウド階層としてセットアップできます。

**FabricPoolでAlibaba Cloud Object Storageを使用する場合の考慮事項**

- Alibaba Cloud Object Storageに階層化する場合は、"NetApp Cloud Tieringライセンス"が必要です。詳細については、"ONTAP クラスタに FabricPool ライセンスをインストールする"をご覧ください。
- AFFシステム、FASシステム、およびONTAP Selectでは、FabricPoolでAlibaba Object Storage Serviceの次のクラスがサポートされます。
  - Alibaba Object Storage Service Standard
  - Alibaba Object Storage Service Infrequent Access

    "Alibaba Cloud：ストレージクラスの概要"

上記以外のストレージ クラスについては、NetApp営業担当者にお問い合わせください。

手順

1. `storage aggregate object-store config create`コマンドと `-provider-type``AliCloud`パラメータを使用して、Alibaba Cloud Object Storage の構成情報を指定します。
   - `storage aggregate object-store config create`コマンドは、提供された情報を使用して ONTAP が

Alibaba Cloud Object Storage にアクセスできない場合に失敗します。

- `-access-key`パラメータを使用して、Alibaba Cloud Object Storage オブジェクト ストアへのリクエストを承認するためのアクセス キーを指定します。
- Alibaba Cloud Object Storageのパスワードが変更された場合は、ONTAPに格納されている対応するパスワードをただちに更新する必要があります。

  これにより、ONTAPは引き続きAlibaba Cloud Object Storage内のデータにアクセスできます。

```
storage aggregate object-store config create my_ali_oss_store_1
-provider-type AliCloud -server oss-us-east-1.aliyuncs.com
-container-name my-ali-oss-bucket -access-key DXJRXHPXHYXA9X31X3JX
```

2. `storage aggregate object-store config show`コマンドを使用して、Alibaba Cloud Object Storageの設定情報を表示および確認します。

```
`storage aggregate object-store config modify`
コマンドを使用すると、FabricPoolの Alibaba Cloud Object Storage
構成情報を変更できます。
```

関連情報

- "storage aggregate object-store config create"
- "storage aggregate object-store config modify"
- "storage aggregate object-store config show"

# Amazon S3 を ONTAP FabricPool クラウド階層として設定する

Amazon S3 を FabricPool のクラウド階層として設定できます。ONTAP 9.5 以降を実行している場合は、FabricPool 用に Amazon Commercial Cloud Services（C2S）を設定できます。

**FabricPoolでAmazon S3を使用する場合の考慮事項**

- Amazon S3 への階層化には"NetApp Cloud Tieringライセンス"が必要です。
- ONTAPがAmazon S3オブジェクト サーバとの接続に使用するLIFは10Gbpsポート上に配置することを推奨します。
- AFFシステム、FASシステム、およびONTAP Selectでは、FabricPoolで次のAmazon S3ストレージ クラスがサポートされます。
  - Amazon S3 Standard
  - Amazon S3 Standard - Infrequent Access（Standard-IA）
  - Amazon S3 One Zone - Infrequent Access（One Zone - IA）
  - Amazon S3 Intelligent-Tiering

- Amazon Commercial Cloud Services
- ONTAP 9.11.1 以降、 Amazon S3 Glacier Instant Retrieval （ FabricPool は Glacier Flexible Retrieval または Glacier Deep Archive をサポートしていません）

  "Amazon Web Services ドキュメント：Amazon S3 ストレージクラス"

上記以外のストレージ クラスについては、営業担当者にお問い合わせください。

- Cloud Volumes ONTAPでは、FabricPoolでAmazon Elastic Block Store（EBS）の汎用SSD（gp2）ボリュームおよびスループット最適化HDD（st1）ボリュームからの階層化がサポートされます。

手順

1. `storage aggregate object-store config create`コマンドを `-provider-type`AWS_S3`パラメータとともに使用して、Amazon S3 設定情報を指定します。

   - `-auth-type`CAP`パラメータを使用して、C2S アクセスの資格情報を取得します。

     > `-auth-type` `CAP`パラメータを使用する場合は、 `-cap-url`パラメータを使用して、`C2S` アクセス用の一時的な資格情報を要求するための完全な `URL` を指定する必要があります。

   - `storage aggregate object-store config create`コマンドは、提供された情報を使用して ONTAP が Amazon S3 にアクセスできない場合に失敗します。
   - `-access-key`パラメータを使用して、Amazon S3オブジェクト ストアへのリクエストを承認するためのアクセス キーを指定します。
   - `-secret-password`パラメータを使用して、Amazon S3オブジェクト ストアへのリクエストを認証するためのパスワード（シークレット アクセス キー）を指定します。
   - Amazon S3パスワードが変更された場合は、ONTAPに保存されている対応するパスワードをすぐに更新する必要があります。

     これにより、ONTAPは引き続きAmazon S3内のデータにアクセスできます。

```
cluster1::> storage aggregate object-store config create
-object-store-name my_aws_store -provider-type AWS_S3
-server s3.amazonaws.com -container-name my-aws-bucket
-access-key DXJRXHPXHYXA9X31X3JX
```

+

```
cluster1::> storage aggregate object-store config create -object-store
-name my_c2s_store -provider-type AWS_S3 -auth-type CAP -cap-url
https://123.45.67.89/api/v1/credentials?agency=XYZ&mission=TESTACCT&role
=S3FULLACCESS -server my-c2s-s3server-fqdn -container my-c2s-s3-bucket
```

2. `storage aggregate object-store config show`コマンドを使用して、Amazon S3 の設定情報を表示および確認します。

```
`storage aggregate object-store config modify`
コマンドを使用すると、FabricPoolのAmazon S3設定情報を変更できます。
```

関連情報

- "storage aggregate object-store config create"
- "storage aggregate object-store config modify"
- "storage aggregate object-store config show"

# Google Cloud Storage をONTAP FabricPoolクラウド層として設定する

ONTAP 9.6以降を実行している場合は、Google Cloud StorageをFabricPoolのクラウド階層としてセットアップできます。

## FabricPoolでGoogle Cloud Storageを使用する場合の追加の考慮事項

- Google Cloud Storage に階層化する場合は"NetApp Cloud Tieringライセンス"が必要です。
- ONTAPがGoogle Cloud Storageオブジェクト サーバとの接続に使用するLIFは10Gbpsポート上に配置することを推奨します。
- AFFシステム、FASシステム、およびONTAP Selectでは、FabricPoolでGoogle Cloud Objectの次のストレージ クラスがサポートされます。
  - Google Cloud Multi-Regional
  - Google Cloud Regional
  - Google Cloud Nearline
  - Google Cloud Coldline

    "Google Cloud：ストレージクラス"

手順

1. `storage aggregate object-store config create`コマンドと `-provider-type `GoogleCloud`パラメータを使用して、Google Cloud Storage 構成情報を指定します。

   - `storage aggregate object-store config create`コマンドは、提供された情報を使用して ONTAP が Google Cloud Storage にアクセスできない場合に失敗します。
   - `-access-key`パラメータを使用して、Google Cloud Storage オブジェクト ストアへのリクエストを承認するためのアクセス キーを指定します。
   - Google Cloud Storageのパスワードが変更された場合は、ONTAPに格納されている対応するパスワードをただちに更新する必要があります。

     これにより、ONTAPは引き続きGoogle Cloud Storage内のデータにアクセスできます。

```
storage aggregate object-store config create my_gcp_store_1 -provider
-type GoogleCloud  -container-name my-gcp-bucket1 -access-key
GOOGAUZZUV2USCFGHGQ511I8
```

2. `storage aggregate object-store config show`コマンドを使用して、Google Cloud Storage の構成情報を表示および確認します。

```
`storage aggregate object-store config modify`
コマンドを使用すると、FabricPoolのGoogle Cloud Storage構成情報を変更できます。
```

関連情報

- "storage aggregate object-store config create"
- "storage aggregate object-store config modify"
- "storage aggregate object-store config show"

# IBM Cloud Object StorageをONTAP FabricPoolクラウド層として設定する

ONTAP 9.5以降を実行している場合は、IBM Cloud Object StorageをFabricPoolのクラウド階層としてセットアップできます。

**FabricPoolでIBM Cloud Object Storageを使用する場合の考慮事項**

- IBM Cloud Object Storage に階層化する場合は"NetApp Cloud Tieringライセンス"が必要です。
- ONTAPがIBM Cloudオブジェクト サーバとの接続に使用するLIFは10Gbpsポート上に配置することを推奨します。

手順

1. `storage aggregate object-store config create`コマンドに `-provider-type`IBM_COS`パラメータを指定して、IBM Cloud Object Storage 構成情報を指定します。

   - `storage aggregate object-store config create`コマンドは、提供された情報を使用して ONTAP が IBM Cloud Object Storage にアクセスできない場合に失敗します。
   - `-access-key`パラメータを使用して、IBM Cloud Object Storage オブジェクト ストアへの要求を許可するためのアクセス キーを指定します。
   - `-secret-password`パラメータを使用して、IBM Cloud Object Storage オブジェクト ストアへのリクエストを認証するためのパスワード（シークレット アクセス キー）を指定します。
   - IBM Cloud Object Storageのパスワードが変更された場合は、ONTAPに格納されている対応するパスワードをただちに更新する必要があります。

     これにより、ONTAPは引き続きIBM Cloud Object Storage内のデータにアクセスできます。

```
storage aggregate object-store config create
-object-store-name MyIBM -provider-type IBM_COS
-server s3.us-east.objectstorage.softlayer.net
-container-name my-ibm-cos-bucket -access-key DXJRXHPXHYXA9X31X3JX
```

2. `storage aggregate object-store config show`コマンドを使用して、IBM Cloud Object Storage の構成情報を表示および検証します。

```
`storage aggregate object-store config modify`
コマンドを使用すると、FabricPoolのIBM Cloud Object
Storage構成情報を変更できます。
```

関連情報

- "storage aggregate object-store config create"
- "storage aggregate object-store config modify"
- "storage aggregate object-store config show"

# Azure Blob Storage を ONTAP FabricPool クラウド層として設定する

ONTAP 9.4 以降を実行している場合は、Azure Blob Storage を FabricPool のクラウド階層として設定できます。

**FabricPoolでMicrosoft Azure Blob Storageを使用する場合の考慮事項**

- Azure Blob Storage に階層化する場合は"NetApp Cloud Tieringライセンス"が必要です。
- Azure Blob StorageをCloud Volumes ONTAPで使用する場合は、FabricPoolライセンスは必要ありません。
- ONTAPがAzure Blob Storageオブジェクト サーバとの接続に使用するLIFは10Gbpsポート上に配置することを推奨します。
- FabricPoolでは、オンプレミスのAzureサービスであるAzure Stackは現在サポートされていません。
- Microsoft Azure Blob Storageのアカウント レベルでは、FabricPoolはホットとクールのストレージ階層のみをサポートします。

  FabricPoolでは、blobレベルの階層化はサポートされません。また、Azureのアーカイブ ストレージ階層への階層化もサポートされません。

タスク概要

FabricPoolでは、オンプレミスのAzureサービスであるAzure Stackは現在サポートされていません。

手順

1. `storage aggregate object-store config create`コマンドと `-provider-type `Azure_Cloud`パラメータを使用して、Azure Blob Storage 構成情報を指定します。

- 提供された情報を使用して ONTAP が Azure Blob Storage にアクセスできない場合、 `storage aggregate object-store config create`コマンドは失敗します。
- `-azure-account`パラメーターを使用して、Azure Blob Storage アカウントを指定します。
- `-azure-private-key`パラメーターを使用して、Azure Blob Storage への要求を認証するためのアクセスキーを指定します。
- Azure Blob Storageのパスワードが変更された場合は、ONTAPに格納されている対応するパスワードをただちに更新する必要があります。

  これにより、ONTAPは引き続きAzure Blob Storage内のデータにアクセスできます。

```
cluster1::> storage aggregate object-store config create
-object-store-name MyAzure -provider-type Azure_Cloud
-server blob.core.windows.net -container-name myAzureContainer
-azure-account myAzureAcct -azure-private-key myAzureKey
```

2. `storage aggregate object-store config show`コマンドを使用して、Azure Blob Storage の構成情報を表示および確認します。

```
`storage aggregate object-store config modify`
コマンドを使用すると、FabricPoolの Azure Blob Storage 構成情報を変更できます。
```

関連情報

- "storage aggregate object-store config create"
- "storage aggregate object-store config modify"
- "storage aggregate object-store config show"

# MetroCluster構成でONTAP FabricPool用のオブジェクトストアを設定する

ONTAP 9.7以降を実行している場合、MetroCluster構成にミラーリングされたFabricPoolをセットアップして、2つの異なる障害ゾーンにあるオブジェクト ストアにコールド データを階層化できます。

タスク概要

- MetroClusterのFabricPoolでは、基盤となるミラー アグリゲートと関連するオブジェクト ストア設定が同じMetroCluster構成に所属している必要があります。
- リモートのMetroClusterサイトで作成されたオブジェクト ストアにアグリゲートを接続することはできません。
- アグリゲートが所属するMetroCluster構成にオブジェクト ストアを設定する必要があります。

開始する前に

- MetroCluster構成がセットアップされ、正しく設定されている。

- 2つのオブジェクト ストアが適切なMetroClusterサイトにセットアップされている。
- 各オブジェクト ストアにコンテナが設定されている。
- 2つのMetroCluster構成にIPスペースが作成または識別され、それらの名前が一致している。

手順

1. `storage object-store config create`コマンドを使用して、各MetroClusterサイトのオブジェクト ストア構成情報を指定します。

   この例では、MetroCluster構成の一方のクラスタにのみFabricPoolが必要です。オブジェクト ストア バケットごとに1つずつ、計2つのオブジェクト ストア設定をそのクラスタに作成します。

   ```
   storage aggregate
       object-store config create -object-store-name mcc1-ostore-config-s1
   -provider-type SGWS -server
       <SGWS-server-1> -container-name <SGWS-bucket-1> -access-key <key>
   -secret-password <password> -encrypt
       <true|false> -provider <provider-type> -is-ssl-enabled <true|false>
   ipspace
       <IPSpace>
   ```

   ```
   storage aggregate object-store config create -object-store-name mcc1-
   ostore-config-s2
       -provider-type SGWS -server <SGWS-server-2> -container-name <SGWS-
   bucket-2> -access-key <key> -secret-password <password> -encrypt
   <true|false> -provider <provider-type>
       -is-ssl-enabled <true|false> ipspace <IPSpace>
   ```

   この例では、MetroCluster構成のもう一方のクラスタにFabricPoolをセットアップします。

   ```
   storage aggregate
       object-store config create -object-store-name mcc2-ostore-config-s1
   -provider-type SGWS -server
       <SGWS-server-1> -container-name <SGWS-bucket-3> -access-key <key>
   -secret-password <password> -encrypt
       <true|false> -provider <provider-type> -is-ssl-enabled <true|false>
   ipspace
       <IPSpace>
   ```

```
storage aggregate
    object-store config create -object-store-name mcc2-ostore-config-s2
-provider-type SGWS -server
    <SGWS-server-2> -container-name <SGWS-bucket-4> -access-key <key>
-secret-password <password> -encrypt
    <true|false> -provider <provider-type> -is-ssl-enabled <true|false>
ipspace
    <IPSpace>
```

関連情報

- "storage object-store config create"

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。